



5 番

各務吉則議員

まちおこし・まちづくりについて

JR高山線、飛騨小坂駅は昭和8年8月25日に開設され、本年8月に80周年記念行事を市民で計画されているが、観光振興・地域振興の発展のため、行政としてどのような支援策を考えているのか。

◆小坂振興事務所長

地域の方々が行う地域づくり事業を支援するため、地域振興事業補助金を活用しています。今回の事業も地域活性化への取り組みです。今後、まちづくりを進めるためには各団体にまちづくりに参画をしていただきたいと思います。

県道の安全対策

小坂地域で国道41号からつながる県道の安全対策は、県とどのようにつながっているのか。

①赤沼田地域から落合地域へ至る河川沿いの県道は増水時、県道が冠水することもあり、崩落の危険も予想されるが安全確認はされているのか。

◆建設部長

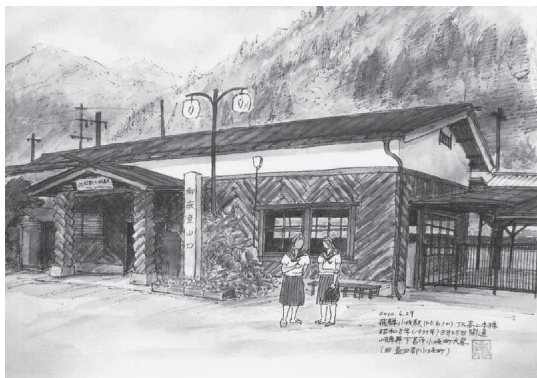
一般県道湯屋温泉線については、昨年の山側からの大量出水や、一昨年の河川増水などの状況を踏ま

え、県へ要望を行いました。山側については治山事業で調査設計を行ってもらう予定です。路側を含めた県道の安全対策は引き続き県へ要望していきます。

②小坂町地内の朝六橋は橋梁として安全対策や調査は行っているのか。

◆建設部長

朝六橋は交通量が一日千台を超える重要な幹線道路の橋梁です。建設後76年が経過しているため、県では5年に1度定期点検を実施し安全確認をしています。耐震化工事は未実施ですので、早期の耐震化を要望していきます。



JR飛騨小坂駅 開設80周年 H25



1 番

田中副武議員
(公明党)

熱中症対策について

暑くなる時期を向え、保育園・小中学校で熱中症が心配されます。対策と考えについて伺います。対策の一つとして「ミストシャワー」を検討できないか。

◆教育長

熱中症の可能性が高くなるのが運動会の時期です。学校ではテントを早めに準備し日陰を有効に活用し、水分をこまめにとり体調管理を行っています。簡易ミストシャワーを設置している学校があるのでその効果を調査し検討します。

学校耐震化

学校の非構造部材への耐震化について、進捗状況と今後の取組みは

◆教育部長

昨年度、文部科学省様式による点検と現地確認を行った結果、比較的軽微なものが多く維持修繕で対応しました。今後はさらなる点検を行い適切な対応を行います。

女性が働く環境整備について

岐阜県は行政・民間で女性管理職の割合が全国で一番低い。下呂市でも同様と思われる。この点に

ついて考えを伺います。又、推進を図る方策についても、伺います。

◆市長

現在、市の女性管理職の比率は18%です。男性、女性を問わず、有能な人材の登用に努めています。

◆経営管理部長

女性の管理職登用率アップには仕事と家庭の調和を保つワーク・ライフバランスが重要とされています。行政では、地道な活動ですが、各団体や職場で若い女性たちが将来に大志を抱けるような環境づくりやワーク・ライフバランスの推奨に取り組みます。

うつ病について

自殺原因にもなっているうつ病、下呂市の状況と対策を伺います。対策の一つとして、「心の体温計」の導入を検討したらどうか。

◆健康医療部長

統計によると下呂市では年間70人程度が「気分障害」として受診されていますが、実際はこれ以上と推測されます。市では「心の悩み相談」を委託し、実施しています。「心の体温計」はインターネットを利用した民間会社が提供するサービスで、導入経費と維持経費が必要となります。費用対効果を検証し、今後の検討課題とします。



12 番
中島新吾議員
(日本共産党)

子育て支援の柱となる

これからの保育園のあり方は

当局は全ての保育園の公設民営化を進めると発表したが、これからの保育と保育園のあり方について、市の基本的な考え方と方向性について問う。

◆福祉部長

市では、心豊かで健やかに、元気にのびのびと生きる力を育む保育をめざすとともに、保育園が地域の子育て支援の拠点となるような仕組みをめざします。地域の理解が得られ、指定管理者として運営すべき団体や地域の体制が整えば公設民営方式の導入を進めます。

政府がすすめる「子ども・子育て新システム」について、市の考え方を問う。

◆福祉部長

本年度子ども子育てに関する事業計画策定に向けた実態調査・ニーズ調査を行います。また下呂市版子ども・子育て会議の設置に向けた条例の制定も考えています。国で基本方針、保育園の認可の進め方などの議論が始まりました。その議論を注視し、今後の対応を進

めます。

万一にもTPPへ参加した場合

地域に与える影響は

市長は「TPPについては私も心配しています。聖域なきでは具合悪いだらうと思います。特にこの地域では、農業をいかに守っていくかが大切」と発言している。万一にも参加した場合に地域に与える影響を想定しているのか。今、安倍首相は参加への道をしやにむに突き進んでいる。市としての態度を明確にして国に働きかける時であると考えてるが、再度、この問題への考えを問う。

◆市長

TPPが聖域なき関税撤廃の方向で交渉が進むのなら、大変なことになる。中山間地域が生き残れるのかと心配しています。農業意欲の減退、さらには遊休農地が増えてくる事が懸念されます。日本の国土を守るためにもいかなるものかと思う。その方向に進んだら、県の市長会での採択されたように聖域なき関税の撤廃には反対しなければならぬ。日本の農業、下呂市の農業を守る必要があります。



下呂市医療ビジョンについて

①病院・医師等との連携は

◆健康医療部長

「下呂市医療ビジョン」は市の地域医療を守り育てるための課題の提言とその取り組みについて方向性を示し、市民の皆様と取り組む医療対策方針です。地域医療を守り育てていくためには市内の医療機関との連携が大切であり、それぞれが持つべき機能や役割を示しながら市民の皆様のご理解をいただくかなければならない状況です。本年度は地域別の医療懇談会を開催し、直接市民の方々とは話し合いを行います。

②病院支援の具体的な施策は

◆健康医療部長

医療施設維持のためには収入が必要であります。市では健診事業を市内医療機関で行っていただけるよう各病院等と受入の協議を進めています。市職員の健診も努めて市内の医療機関を利用する事を勧めています。



3 番
今井美好議員

③新下呂病院への交通機関は

◆経営管理部長

既存のコミュニティバスの利用者が乗り継ぎしなくてもいいように路線を延伸し対応するように検討しています。またJRや路線バスを利用される病院利用者には、下呂駅前から新病院行きのコミュニティバスや濃飛バス合掌村線が新病院まで延長する予定ですのでご利用いただきたいと思います。JRのダイヤを考慮しつつ、濃飛バスと検討を進め、新病院利用者の利便を図っていきたいと考えます。

④医師が働きたいと思える環境づくりは

◆健康医療部長

医師の就労環境改善に向けては、医師住宅の整備や女性医師就労のための育児支援などの取り組みが必要と考えています。まずは今年度中に医師住宅整備計画の提案を予定しています。

⑤医療ビジョン全体を通して

◆市長

市民の健康と命を守る医療は大切だと思います。医療の崩壊が地域の崩壊につながるとまで言われています。医療フォーラムなどを通じて、医療機関・行政・市民が一体となり市の医療を守っていきたいと考えます。